# 特選 例えばこんなプログラム

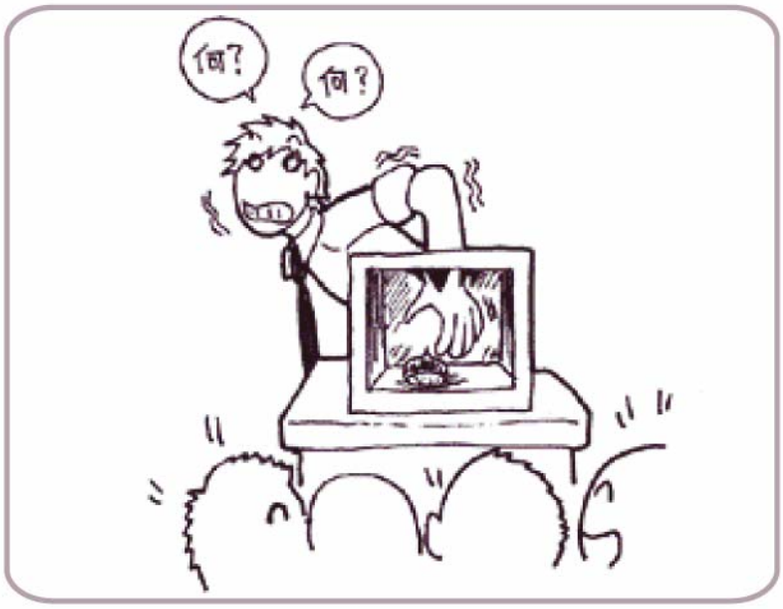
12事例

森林で授業をするのは良いけれど。
現場で働く先生の悩みとしては、
そんな場所で授業をするための
ネタや知識が乏しいこと。

それではこんなのはいかがでしょう。
先生方が使いやすいように
場所や時期に合わせて
アレンジしてください。

■自分が持っている様々な感覚を認識する

# 五感で遊ぼう




私たちが感覚から得ている情報は、視覚によるものが80%以上を占めると言われています。
普段意識しない・あまり使っていない感覚を意識すると、物の見方や感じ方がとても広くなります。

## プログラムの流れ

| 時間（目安） | 内容 | 用意する物 |
|---|---|---|
| 0:00 | **●色々触ってみよう**<br>袋の中にある物を手で触って、足で触って中身を当てるゲーム。松ぼっくりやドングリなどが触りやすい。 | ・中の見えない袋<br>・袋の中身 |
| 0:10 | **●石当てゲーム**<br>目隠ししたまま手触りで石ころを覚え、後で目隠しを取ってその石を探してみる。二人ひと組になって対決しても良い。 | ・小石（たくさん）<br>・目隠し（バンダナやタオル等でも良い） |
| 0:20 | **●グループで感覚遊び**<br>①目をつぶって色々味わってみよう<br>・コクワの実・ヤマブドウの実<br>②目をつぶって色々嗅いでみよう<br>・ホオの葉・カツラの葉・クサギの実<br>③音を記録しよう<br>・ネイチャーゲーム「音の地図」<br>④おさわりネイチャービンゴ<br>・触覚のネイチャービンゴ | ・高い枝の先から実を取れるような器具があると良い。<br>・紙、鉛筆<br>・ビンゴワークシート |
| 1:00 | **●まとめ**<br>・グループでどのような感覚を使ったのかを発表しあい体験を共有する。<br><br>「普段使わない感覚を開くと、今まで分からなかった色んなことが感じられるよ」<br>と、声かけをして終了。 | ・紙、鉛筆、目隠し |
| 1:10 | | |

## この活動のねらい

・普段使わない感覚でものを観察することで、ものの新しい感じ方に気づく。
・様々な感覚を自由に使って、対象物をじっくりと観察する。

## 達成目標

・聞き耳を立てたり、感触を使って物を感じ、表現できるようになる。
・野外にある様々な物に触ったり、匂いをかいだりできるようになる。

## 関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：2年生 生活科 目標(2) 内容(5)

単元名：「しぜんのふしぎをさがそうよ」
（教育出版）

## 適した時期

・事例では秋だが、春の芽吹きの時期にも楽しめる。

例えばこんなプログラム

## ■ストーリーのある活動を作るポイント■

### 導入：まずは視覚に頼らない遊びをしてみよう。

目で物を見なくても意外に分かるんだな。あるいは、目で見ないと全然想像がつかない。いろいろな感想があるでしょう。
視覚に頼らない活動を楽しく展開してみましょう。

### 本体1：いろいろな物に触ってみよう嗅いでみよう。

時間の関係もありますが、子どもたちに様々な感覚を通して自然を感じさせてあげましょう。口に入れる物は味見をする程度で飲み込まないように、手に触れる物はウルシに気を付けて。

### 本体2：体験を共有する。

まとめの活動の時にお互いの体験を発表できると、自分が行った活動以外にも様々な感覚の使い方があることが分かります。そのような体験がしたくなるように声をかけてあげましょう。

### まとめ：何を通して物を感じるか。

人間は感覚のほぼ全てを視覚に頼っています。だから、目をつぶるだけで他の様々な感覚が目を覚まして、普段と違う世界に接することができます。いつもは使わない感覚でいろいろな物に触れると、世界の感じ方が違いますよ。

起承転結

例えばこんな プログラム

## ちょっとワンポイント 授業のための＋α

袋の中のものを次々と触らせる場合、クラスや学年の人数が多いと、全員に触らせるのはとても大変です。かといって、誰か一人だけに触らせるのも、その子だけにしか経験させることができず、これもまた難しいところです。先生やスタッフが数多くいるのであれば、同じものが入った袋をいくつか用意して効率よく触らせる、という手もありますが、これも手間がかかって大変。そんなときは、人前に出ても平気そうな子に前に出てきてもらい、「この子だけに、みんなの前でさわってもらうよ。この子の顔をみて、どんなものが入っているかを想像してみよう」とみんなに声をかけながらやると、案外共感でき、面白く進めることができます。

■夜という現象と、人間の機能

# 夜の僕たちのひみつ

宿泊学習などの夜の活動の定番といえば、肝試しにキャンプファイヤー・・・。
でも、夜だからこそできる学習もあるんです。夜だからこそ開く感覚もあるのです。せっかくの「本物の夜」で学習しない手はありません。

## プログラムの流れ

| 時間（目安） | 内容 | 用意する物 |
|---|---|---|
| 0:00 | **●夜の森を歩く練習をしよう**<br>肝試しじゃないので怖がらなくて良い。夜の森は動物たちの時間。脅かさないように静か〜に歩く練習をする。 | ・蚊などの虫対策。虫除けスプレーは室内で使用し、携行は禁止する。どうしても気になるときは蚊取り線香を。<br>・先生は非常用の懐中電灯や無線などを用意。 |
| 0:20 | **●活動①息を殺して気配を探る**<br>・闇のなるべく深い所森の深い場所で静かに時間を過ごしてみる。夜に鳴く鳥の声や動物たちの走る足音が聞こえたりする。 | |
| 0:30 | **●活動②明反応と暗反応**<br>・片方の目を塞いでもらい、もう片方の目でろうそくの火を1分間眺める。<br>・その後、両方の目で見え方が違うことを確認する。 | ・ロウソク、ライター |
| 0:40 | **●活動③色当てクイズ**<br>・目が慣れたら、暗い場所で色画用紙のカードを見せ、色当てクイズをしてみる。 | ・クイズ用の色紙 |
| 0:50 | **●まとめのレクチャー**<br>・暗いところでも時間が経てば目が見えるようになる。色が判別できないが、それは夜行性の動物の見え方と同じ。つまりみんなは野生のチカラも備えている。<br>・夜だから見える、夜しか見えない物も多い。また、普段の生活の中で、電気の明かりがあると分からないことが、森の中にはたくさんある。 | |
| 1:00 | **終了** | |

## この活動のねらい

・電灯のない夜の暗さを感じる
・夜の森林で、そこに息づく動物の気持ちになる。
・森林への畏怖の心を認識する。
・普段は意識しない人間の機能について認識する。

## 達成目標

・明反応と暗反応の暗さへの順応について気づく。
・電気の光のない自然の夜を体験する。

## 関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：4年理科　目標(3) 内容C (1)
単元名：「月の動き」「夏の星」「星の動き」

指導要領：６年理科 目標(1)内容A(1)

## 適した時期

・夏の間は樹木がよく茂って森の暗さを感じられるが、プログラムをアレンジして冬の月夜の明るさを感じるなども面白い。

例えばこんなプログラム

## ■ストーリーのある活動を作るポイント■

### 導入：夜の森を、怖がらずに歩いてみよう。

夜の活動で子どもたちのテンションも上がり気味ですが、ここはぐっと落ち着かせて懐中電灯や虫除けスプレーなどをバッグに仕舞わせます。無言にする練習や抜き足差し足で歩く練習で森に静かに入る心づもりを作りましょう。肝試しではないことを繰り返し説明します。

### 本体1：夜の森を感じてみよう

森の中で静かに立ち止まると他のグループの歩く足音や遠くの車の音などが良く聞こえます。また、動物たちの活動の気配も感じることができるので、そのような感覚に耳を傾けます。
月明かりや星明かりに注目しても良いでしょう。

### 本体2：暗いところでも目が見える秘密って知ってた？

闇にならすと、目は暗い中でもけっこう見えることを体験します。また、そういった場合は色が判別できない、明暗だけを捉える力が働くことを、色クイズで認識します。

### まとめ：人間の能力ってスゴイ？

暗い中で目が見えることは、人間が夜にも活動する動物だったことの名残りと言えます。長い進化の歴史をたどってきたこと、そして野生の能力を人間は持っていることに思いを傾けてみましょう。

起 承 転 結

例えばこんな プログラム

## ちょっとワンポイント 授業のための＋α

子どもを、夜、しかも森の中を懐中電灯ナシで歩かせる、なんていうことは先生方もほとんどやったことがないでしょうし、先生方自身、普段の生活の中でやることはないでしょう。ですから、出発前は、子どもはもちろん、先生方もすごくドキドキしてしまい、それがいつしかイライラに変わってしまうことがあり、困ることがあるのです。進める側としては、子どものそういうドキドキも理解した上で、ゆっくりと静かに、穏やかに森の中に入ろうと話を展開するのですが…「こら！お前ら、静かにしないと連れて行かないぞ」と、そこまでの雰囲気を壊してしまうような声のかけ方は要注意。

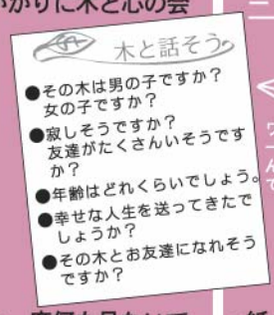
あとは、何か勘違いしちゃって「おばけが出るぞ」とかいう、必要以上に不安を募らせるようなことを言う方がいたりして、興ざめしてしまうこともあります。そういうことが起こらないように、引率される先生達とは、事前に詳細に打合せを済ませておきましょう。

# 私の木

いわゆる五感だけでは捉えきれない、もっと別の感覚を使った情緒的なプログラムです。
このような感覚の積み重ねは、豊かな想像力や相手に対する思いやりの気持ちを育む重要なものとなります。

## プログラムの流れ

| 時間（目安） | 内容 | 用意する物 |
|---|---|---|
| 0:00 | **●木の絵を描こう**<br>できれば室内で何も見ずに木の絵を描く。 | ・紙と鉛筆 |
| 0:10 | **●活動①目隠し当て**<br>・二人ひと組になって片方が目隠しをし、もう片方が任意の木まで案内する。目隠しした方は視覚以外の感覚を使ってその木を覚える。出発点に戻って目隠しを外し、覚えた木を探す。見つかったら交代して行う。 | ・目隠し（バンダナやタオルなどでも良い） |
| 0:30 | **●活動②木と話そう**<br>・ワークシートを一枚ずつ配り、自分が覚えた木の近くに行ってワークシートを手がかりに木と心の会話を交わす。 | ・木と会話をするためのワークシート |
| 0:45 | **●まとめ**<br>・終わったらもう一度何も見ないで木の絵を描く。<br>最初に描いた絵とどれほど変わっているかを自分で比べてみる。<br>「色んな感覚で接すると、目で見たり触れたりするよりもずっと相手のことを理解できるんだね。」 | ・紙と鉛筆<br>（紙は最初に絵を描いたものでも良い） |
| 1:00 | **●終了** | |




ワークシートの一例。他にも色んな質問を考えてみましょう。

## この活動のねらい

・樹木にも様々な手触りがあることを知る。
・木の身の上を考えることで想像力を豊かにする。
・木の側で静かな時間を過ごす。

## 達成目標

・言葉を使わなくても、相手の気持ちを想像できるようになる。
・樹木と森林の多様性を理解する。

## 関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領　3～4年道徳　3－(1)
　　5～6年道徳　3－(1)

## 適した時期

・多くの樹木に触れられる場所があれば春から秋まで活動できます。また、雪の締まった春は、場所を問わず行うことができるよい時期です。

## ■ストーリーのある活動のポイント■

### 導入：自分の木のイメージを確認する。

木の絵を描く時は特に言葉をかける必要はありません。自由に、短時間で描いてもらいます。
「これから何をするんだろう？」という期待感を持たせるくらいで良いでしょう。

### 本体2：内なる木を育てる時間。

ワークシートの質問例を元にして木と静かに会話します。
先ほどの活動とうって変わって静かな雰囲気づくりに勤めましょう。また、木と会話している時間は声を発することと人との会話を禁止するようにします。

起 承 転 結

### 本体1：木に触れる。木を覚えようとする。

自分と何の関わりもなかった木とコンタクトし、関わりを持つ時間です。
ペアを組んだ相手との勝負などと焚きつけて積極的に木を覚えるように言葉をかけるようにします。
でも目的は木を覚えることではありません。あくまでも様々な感覚を使って木に触れることが重要です。

### まとめ：変化した木へのイメージを確認する。

最後に再び絵を描きますが、このときも特に言葉は掛けません。最初に描いた絵との違いが見られたら、それが木に対してイメージが変化し、深く木と交感した証拠となります。



## ちょっとワンポイント 授業のための＋α

この活動は、これから進められるであろう様々な自然体験の前のウォーミングアップにも使えるし、２回目の木の絵を書く時間を全体の活動の最後に持って来れば、まとめの活動にも使える、とても幅の広い活動だと思います。しかし、失敗すると、単なる「木当てゲーム」になってしまい、木と自分はつながっているとか、心の中や感性に響かせる、という目的を果たせなくなってしまいます。

指導者は、事前にしっかりとセリフ回しをイメージし、練習すると良いでしょう。それから、目隠しをして子ども達を歩かせますので、目隠しをする、ということの目的やルールをしっかり子ども達の中に入れてあげることも重要です。

特に、目隠しをして人を誘導するので、相手を気遣ったり安全に十分に注意することを伝えておきましょう。

木と語らう時間は人との会話を禁止して静かな雰囲気で。

■季節感を感じ取る力を育てる。

# はるのかおり

コンクリートに囲まれた市街地では、季節の変化を存分に感じるのは難しいかもしれません。だから、子ども達が季節を実感できる感覚は、暑い・寒いに偏りがちです。森林にはむせ返るほどの季節の移ろいの息吹があります。「はるのかおり」は、それを感じ、表現してみるプログラムです。

## プログラムの流れ

| 時間（目安） | 内容 | 用意する物 |
|---|---|---|
| 0:00 | **●春の感覚について考えよう**<br>春って、どんなものか考えよう。春らしい物を紙に書いて壁に羅列する。 | ・紙と鉛筆<br>セロテープ |
| 0:20 | **●実際の春はどんな感じだろう。春を探しに行こう**<br>ワークシートを持って森林散策にでかける。春を感じられる物や匂い、音、生き物などを文字や絵で書き留める。少しだけ採取してシートに貼り付けても良い。 | ・ワークシート、色鉛筆、セロテープ、 |
| 1:00 | **●春の感覚を共有してみよう**<br>見つけてきた春をみんなで発表してみる。発表は言葉や文章、絵、ジェスチャーなど、様々な方法を促す。 | |
| 1:30 | **●まとめ**<br>春は色んな感覚で感じられる。他の季節ではどんな感覚があるのだろう。夏や秋にも同じ事をしてみよう。 | |
| 1:35 | **●終了** | |

## この活動のねらい

・季節感を感じる。
・季節のものごとを自分なりに捉えてみる。
・その季節にしか感じられないことを感じてみる。

## 達成目標

・感じたことを様々な方法を使って表現できるようになる。
・自然の中の季節の物を認識できるようになる。

## 関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：2年生活科　目標(2)　内容(5)
単元名：「ぽかぽかのはらへ」

指導要領：4年理科　目標(1)　内容(1)
単元名：「あたたかくなると」

## 適した時期

・通年。春や秋は季節感溢れるが、夏や冬に行っても面白い。ただし、もっとも五感を刺激し、開放する感覚にあふれるのは春だろう。

## ■ストーリーのある活動のポイント■

### 導入：春を思い浮かべる。

できるだけ外が見えないくらいの部屋で、子ども達の頭の中だけにある春のイメージを聞き出します。

### 本体1：実際に春を感じてみよう。

様々な感覚を使って春を感じられるように促します。そのために、グループ毎に「春の匂い」「春の音」「春の色」などに分けて目隠しなどの小道具を用意してもやりやすいかもしれません。

### 本体2：春の感覚を発表し、共有する。

発表の時には様々な表現を使うように課題づけしても面白いかも知れません。「言葉を使うなら俳句形式」「ジェスチャーのみで表現」などのルールづけをすると、春を表す多様な表現が生まれてくるかも知れません。

### まとめ：感覚を使おう。

「この時間だけではなく、その時期だけの感覚は一年中存在する。いつも感覚を開いて言葉にはできないような季節の感覚を感じてみよう。」という問いかけも面白いですね。

起 承 転 結



## ちょっとワンポイント 授業のための＋α

この活動は、皆さんもイメージできるとおり、深い野山でなくても、校庭や公園でもできる活動です。大切なのは、普段は見過ごしてしまうような小さな季節の変化をどれだけ敏感に見つけ出せるか、です。ですから、いきなり外に出て「ほら春を探せ」というのではなく、小さな変化を見つけたり、ちょっと見方を変えるような練習をしてから外に出るとよいでしょう。練習、といってもそんな大層なことをする必要はなく、においをかがせたいのであれば「一回鼻をかんで、空気の通りをよくしてから外に出よう」とか、音に着目したいのであれば「今、聞こえる音はいくつあるでしょうか」といった遊びをしたり、色鬼とか、ちょっとした草むらの中に人形とか文房具といった人工物を紛れ込ませて、それを探して数えるようなあそび（カモフラージュ-p56）をしてから･･･とか、そんな活動で子ども達の感性は十分に開かれます。

いつもよりよく見て、いつもと違う雰囲気。

# たねの旅のものがたり

植物は根を下ろした場所で一生を終えます。つまり、動かないものだと思われがちですね。
実は、私たちの気づかない方法で、思いも寄らない方法で植物たちは動き回っているのです。そんな彼らの旅を探ってみると、生物についての認識がぐっと深まりますよ。

## プログラムの流れ

| 時間（目安） | 内容 | 用意する物 |
|---|---|---|
| 0:00 | **●種を探そう**<br>植物の種子を、できるだけたくさんの種類について見つけて持ってくる。 | ・種集めのための封筒（ビニール袋では静電気が発生する） |
| 0:30 | **●活動① 種を分けてみよう**<br>・同じような形をした種どうしを集めてきれいに並べてみる。 | ・小物ケース（もしくは紙にきれいに並べても良い） |
| 0:50 | **●活動② 種子散布の戦略（レクチャー）**<br>・植物の種子散布戦略についてのお話。動けない植物はどのように移動するのか。<br>（風、水、動物、くっつく、はじける）<br>・並べた種はどの戦略をとっているのか検証し、並べ替えてみる。 | ・レクチャー用の資料 |
| 1:00 | **●種を飛ばそう**<br>「風で飛ぶ種を真似して作ってみよう。上手に飛ぶかな？」<br>飛ばすためには創意工夫が必要。植物は大変な努力をしてその形を手に入れていることを伝える。 | ・紙、重りになるもの、テープ、はさみ、磁石など<br>・扇風機 |
| 1:30 | **終了** | |

## この活動のねらい

・種子が工夫をこらして遠くに移動しているということに気づく
・子孫を残すということに創意工夫する生き物に思いを寄せる

## 達成目標

・種子散布の形態について気づく
・様々な種子散布の戦略について理解できるようになる
・種子の形から、散布様式の分類ができるようになる

## 関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：2年生活科 目標(2) 内容(5)
単元名：「すいすいさわやかきもちがいいね」
「いろいろな はやみ」

指導要領：4年理科 目標(1) 内容(1)
単元名：「すずしくなると」

## 適した時期

ミズナラなどの種子がたくさん見つかるのは秋ですが、ハルニレなど、初夏から種をつけるもの、カツラやツルアジサイなど冬にも種子を散布するものがあり、実は一年中できるプログラムです。

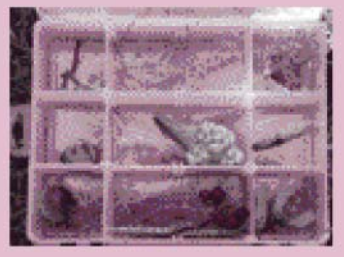
## ■ストーリーのある活動のポイント■

### 導入：種子を探しに行こう

導入の活動なので、勢いをつけることが大切です。たくさんの種類の種子を集めてきたチームが勝つなど、競争にしてもよいかもしれません。

### 本体1：分類してみよう

種子を似たような形と大きさで分類しますが、それを美しく見栄えのするように並べることがヒントです。格好よく並べられれば、一つの絵を描きあげたような達成感も得られます。



### 本体2：種が動く方法についての解説

たねの種子散布についての解説です。図や絵、実物を使って分かりやすく解説しましょう。それぞれの長所や短所についても解説できると、より理解が深まります。

### まとめ：種の模型を作って飛ばしてみよう

本物の種子のように上手に風に乗る種子を作ってみましょう。きっとわずかなねじれや比重が鍵になるでしょう。上手に飛ばせるようになるまで、工夫と改良を重ねるように伝え、植物が大変な努力をして「風に運ばれる種子」を生み出したことを感じさせます。

起 承 転 結

例えばこんな プログラム

## ちょっとワンポイント 授業のための＋α

一見、決して動くことのできない植物が、種子という手段を使って動いている、というものの見方や価値観を大きく変えることのできるとても面白い活動です。種子の集め方も、単に手で拾うだけではなく、ヒモをつけたタオルを引きずって、そのタオルについた種子を集めるという方法を経験すると「動物の体にくっついて移動する種子」を説明しやすいかもしれません。

また、実際に、例えば「遠くまで飛ぶ種子」を作ってみる、そんな活動をすると、ますます種子の巧妙さを実感を持って理解することができるでしょう。工作活動はとても楽しいのですが、ともすれば「種子を作るための工作」という目的を忘れてしまい、切ったり貼ったりする行為そのものが楽しくなってしまいがちですので、子ども達にうまく納得してもらうセリフ回しはもちろん、道具や材料の出し入れも必要十分な数量にとどめ、学びの妨げにならないような準備を整えることが重要です。

空飛ぶ種の模型は薄い発泡スチロール。真ん中につけるシールを重りに。

■生物の季節をめぐるサイクルを考える。

# 生き物たちの冬

春や夏に比べて冬に生き物の姿を見る機会はあまりありません。だから、冬の生き物が何をしているのか考える機会も少ないことでしょう。
雪があるからと言って、冬に生き物たちがいなくなってしまう訳ではありません。冬の生き物たちが何をしているのか、なぜ私たちには見えないのかを想像します。

## プログラムの流れ

| 時間（目安） | 内容 | 用意する物 |
|---|---|---|
| 0:00 | **●冬の寒さ体験**<br>「まずは冬がどれくらい寒いのか、思い出そう」普段着（室内着）のまま3分間だけ外に出る。<br>「冬は寒い！」 | ・寒くなった子ども達をすぐに温められる部屋や衣服 |
| 0:10 | **●冬の生き物さがし**<br>「冬は寒いよね。だから生き物が少ないように思うけど、本当に少なくなったのだろうか。探しに行ってみよう。」<br>・冬の鳥を探そう<br>・冬の動物を探そう<br>・冬の植物やきのこを探そう<br>（グループごとに様々な生き物探しをしてみる） | ・採集用のビニール袋、双眼鏡、図鑑など |
| 1:30 | **●冬の生き物が何をしてるか考えよう。**<br>「やっぱり見つかった生き物は少なかった。じゃあ本当に冬は生き物が減っているのかな？見つからなかった理由を考えよう。」<br>→グループごとに発表 | ・考えるヒントになりそうなもの。本など。図書室で行ってもよい。 |
| 2:00 | **●まとめのレクチャー**<br>「生き物は季節を通じて同じだけいるけど、それぞれ冬の過ごし方が違う。動物は食べ物を貯めたり、冬眠したりするし、鳥は暖かい南の方に向かって飛ぶ。植物は種子になったり、葉っぱを落としたり、地面の中で冬を過ごす。冬は辛い時期だけど生き物はちゃんと生きている。」 | ・根拠となる書籍。図鑑など。 |
| 2:20 | **終了** | |

### この活動のねらい

・生き物たちの冬の生活を想像する。
・冬の厳しさと生き物にとっての季節の動きを感じる。

### 達成目標

・生き物のライフサイクルの状況を学ぶ。
・様々な生き物の越冬行動と戦略を知る。

### 関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：4年理科　目標(1)　内容(1)
単元名：「さむくなると」

### 活動に適した季節

厳冬、積雪期（12～2月）

例えばこんなプログラム

## ■ストーリーのある活動のポイント■

### 起　導入：冬の寒さを体験しよう

北海道の冬は当たり前に寒いですが、その寒さを思い切り感じる機会は、意外に少ないかもしれません。
室内着で外に出たらどれだけ寒いのかを体験して、こんな過酷な環境で生き物たちが生活していることを想像させます。

### 承　本体1：実際に探してみよう

外に出て実際に生き物たちを探してみましょう。どんな生き物がどんな所で見つかるでしょうか。
なるべく生き物の気持ちになってもらって探してみます。

### 転　本体2：冬に生き物たちが何をしているのか考えよう。

ほとんど目にすることができなかった生き物たちですが、いつもと変わらずに生活していることを伝え、どこでどんなふうに冬を過ごしているのか考えてもらい、グループごとに発表してもらいます。その時に、自分だったら冬をどう過ごすのか、言ってもらってもよいでしょう。

### 結　まとめ：生き物たちの冬の過ごし方

それぞれの生き物たちがそれぞれのやり方で厳しい冬を乗り切っていることをレクチャーします。
どんな季節でも、生き物たちの営みがあることを知ってもらいます。



## ちょっとワンポイント 授業のための＋α

冬は寒い、ということは誰でも知っていることですが、その寒さを直接体に刻み込んでみようというのが、この活動の導入部分です。たしかに、北海道において真冬にTシャツ1枚で外に出る、ということはまずないわけですから、これはありそうでなかった活動だと言うことができます。もちろん、風邪を引いて体調を崩してしまったら元も子もありませんから、すぐに温かい服を着ることができる、あるいはすぐに温かい部屋に逃げ込むことができる、といった準備を万全に整えておきましょう。また、事前に子ども達が風邪を引いていないか、汗などをかいていないか、ということをチェックすることも重要です。

雪遊びのかっこう